



風の子

糸魚川市立木浦小学校

H30 学校だより No.16

平成31年1月10日発行



桜草咲き始めました

今年の干支 「猪」と「亥」から

富永 浩文

2019年が始まりました。明けましておめでとうございます。年末年始、降雪はありましたが、元日には初日の出を拝むこともでき、およそ穏やかな新春となりました。木浦も水墨画を思わせる美しい風景が広がっています。皆様にとりまして幸多き一年になりますようお祈りいたします。さて、新しい年の始まりにあたり、始業式で次のような話をしました。

今年はいのしし年です。漢字では、猪、亥と表されます。まず、「猪」という言葉、正に、動物の「いのしし」です。猪突猛進（ちよとつもうしん）という言葉があるとおおり、勇気とチャレンジ精神の象徴ともされています。是非、新年に立てた目標を目指して、失敗を恐れず取り組んでほしいと思います。

もう一つ、「亥」という言葉です。

亥は12支の最後の干支です。12の干支は、月や時間、方角などを表しています。どれも始まりに戻る最後にあたります。植物の一生でたとえると、花が咲き終わり、栄養を実に蓄え、種を付ける時期。新たに芽を出す命が体に宿る時期です。次のスタートへの準備を整える時期ともされています。今年、5月に平成から新しい元号がスタートします。少し早いスタートとなりますが、ぴったりの年になると思います。



二つのことを合わせると、いのししのような爆発的なスタート力につなげるエネルギーを、一生懸命に蓄える年にしようということです。そのために、初心を忘れず、自分を高める努力をお願いします。

3学期は1年間のまとめの学期です。あと3ヶ月で各学年のゴールを迎えます。木浦小学校の3つのめあて(種)、「不思議だね」「笑顔だね」「元気だね」について、自分はどうな姿でゴールを迎えるのかを、自分の心と相談しながら、家族や先生方と相談して決めてほしいと思います。

一方で、ゴールテープの向こうには、新たなスタートラインが待っています。そのスタートラインに立つための準備をしてほしいと思います。6年生は、中学校への進学準備、5年生は最高学年になるための準備、1年生は、2年生として新しい1年生を迎える準備などです。3学期は、51日間です。1, 2学期に比べると1ヶ月分短くあっという間です。一日一日を大切に過ごしていきましょう。

3千の命 誕生！ 新年早々さいサケ(幸先)がいい



11月19日に採卵・授精活動を行い飼育し始めたサケ。清らかで滋養豊富な山水のゆりかごに抱かれ、3千の卵は静かに孵化の日を待っていました。年末も押し迫った30日あたりから、何匹かが卵を破りひれを動かし始めました。そして、新年になると、ほとんどの卵が孵化していました。現在元気にひれを動かしています。



小さくても力強い生命力

当初、1月中旬が孵化の予定でしたが、それよりも2週間ほど早い誕生でした。しかも、ほとんどの卵が孵化しました。今年は、年度をまたがず3月に放流する予定です。6年生と一緒に木浦小学校を旅立つことができるように、3、4年生と成長を見守っていこうと思います。

冬休み中も地域で育てていただきました

冬休み中も、子どもたちは地域の中で守られ、温かく育てていただきました。

公民館では、25日、27日の二日間、冬休みの寺子屋を開いていただきました。木浦小学校のほとんどの子どもたちが参加していました。能生小学校など、他校の子どもも参加していて交流が図られていることもうれしかったです。中、高学年は、楠田先生、岩崎先生から毛筆の指導をしていただきました。また、低学年の子どもたちは、磯谷館長さんから硬筆の指導をしていただきました。静かな中で、また、和気藹々とした雰囲気の中で、書写に取り組む様子が見られました。



静かな中、緊張しながら臨む

一方、保育園でも、学童保育や園児さんとの交流で、子どもたちは学習を見ていただいたり、色々な体験をさせていただいたりしました。

新年1月3日(木)には、公民館で書き初め大会が行われました。1時間半、休憩なしで毛筆、硬筆に一生懸命取り組んでいました。この日も、一人ひとり楠田先生、岩崎先生から指導を受けながら用紙に向かいました。五味川さんが雲花紙に一枚一枚ていねいに貼り、壁に掲示してくださいました。また、まゆだまの飾り付けや岩崎さん、伊藤さんの愛情たっぷりのお汁粉など、子どもたちは正月の文化を味わっていました。

冬休みも地域で育てていただいていることに、うれしさと感謝の気持ちでいっぱいでした。



柁の枝に美しいまゆだま

空き缶回収3回目

2学期末に集められた空き缶を、塚田運輸さんから買い取っていただきました。以下の通りの金額をいただきました。

85kg 3,672円

子どもたちの活動に役立てさせていただきます。

今後ともご協力をお願いいたします。



「平成最後の…」 守ることと整理することの区別

最近よく聞かれる「平成最後の〇〇」という言葉。私たちもさまざまな場で使っています。最近では「平成最後の冬休み」がそれです。元号が変わっても、世の中の動きが大きく変化することはないかとは思いますが、ただ、これを機に生活の様々なスタイルを見直し、本当の最後にしようとする人も多くいらっしゃるようです。

その一つが年賀状です。今回私の元に届いた年賀状の中には、次のような言葉がありました。「平成の終わりを節目に、賀詞交換も終わりにさせていただきます。長年のご厚情誠にありがとうございました。」と。そう言えば、年賀状離れが進行していることを紹介する新聞記事も散見されます。

価値観の変化、多様化に伴い、かつてほど年賀状が重視されなくなっているようです。やりとりする相手を整理していくこともお互いのために必要なのかもしれません。ご家庭の事情もあるでしょうから、一概に批判はできません。ただ、年に一度無事を確認し合ったり、「本年もよろしくお祈りします。」と襟を正したりすることは大切なことだと思います。また、年賀状で葉書の書き方を子どもたちに教えることも大切ですし、大人になっても毎年心を込めて書くことは大切な習慣だと思います。

私はこれからも、元旦に郵便屋さんが来るのを心待ちにし、相手の顔を思い出しながら大切に読むことでしょう。そして、新たな元号〇〇となっても「〇〇最初の年賀状」を、初心を忘れずに書くつもりです。

時代の流れの中で、やめる、減らす、縮小する、統合する、移行するなどの改革が必要になることも多くあります。スクラップ&ビルドという言葉もあります。学校の教育活動も同じです。3学期は、来年の教育活動を計画、準備する期間にも位置づけています。時に大胆な改革も必要だと考えています。ただ、これまで守ってきた伝統を簡単に壊すことはできません。十分話し合い、地域や保護者のみなさんにご理解いただきながら進めて参ります。守るべきことと整理することの区別を付けて改革、改善を行って参ります。また学校の教育活動に対するご意見も是非お寄せください。

